

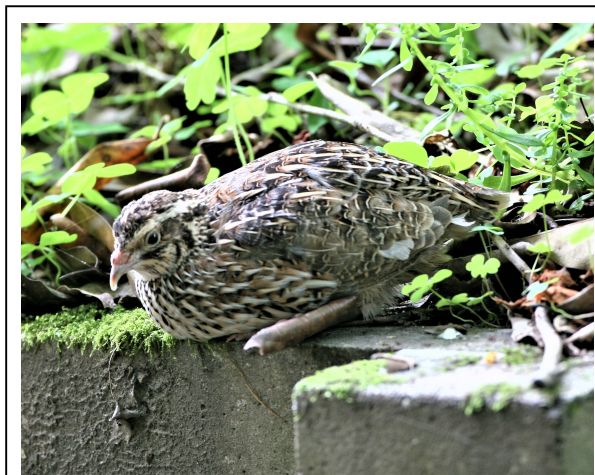
ウズラ *Coturnix japonica* Temminck et Schlegel

【選定理由】

春の渡り、および越冬の季節に平野部や沿岸部で記録されているが、数は極めて少ない。1970年代まで、県内には毎年越冬している場所が何か所かあった。2000年頃までは、沿岸部を中心に越冬期や春の渡りで確認されることも希ではなかったが、近年は確認の可能性のある場所もごく限られている。以前は山地や丘陵地での記録もあったが、近年は平野部の記録だけである。

【形態】

全長 20cm。上面は淡赤褐色で黒色と淡黄褐色の横斑と縦斑がある。下面は淡黄褐色で、胸と脇に赤茶色と黒色の縦斑がある。雄は、眉斑が黄白色で頬と喉が赤褐色。雌は、眉斑が淡黄色で頬と喉が白っぽい、上胸に2本の黒帯がある。



愛知県弥富市, 2006年6月6日, 浅井利明 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

越冬期は沿岸部の干拓地や平野部の河川敷、丘陵地や山地の耕地など開けた場所で見られ、渡りの季節は沿岸部の干拓地や、平野部の河川敷での記録が多かった。

【国内の分布】

本州中部以北で繁殖し、冬期は本州中部以南に生息する。

【世界の分布】

モンゴル北部、バイカル湖、アムール、ウズリー、中国北部で繁殖し、冬期は朝鮮半島、中国南部、インドシナに生息する。8亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

草原、農耕地、河川敷などに生息する。飛び上がることが少なく、草むらの中に潜伏していることが多いので観察は難しい。秋の渡りや越冬期はひっそりと生活していることが普通であるが、春の渡りでは開けた場所へ出て、足早に歩きながら盛んに採餌する姿を見ることがある。人が近付くと草陰などに隠れて静止するが、さらに近付くとプルルルという羽音を立てて足元から急に飛び立つことが多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

以前は毎年複数羽が飛来する越冬地が何か所か知られていたが、現在ではほぼ毎年のように飛来する越冬地はきわめて限られている。近年ではこうした場所でも、毎年のように環境が変化するために確認できない年も多くなり、1箇所でも複数羽の記録も希になっている。減少の要因として、越冬地である沿岸部の干拓地では道路の整備、商工業施設やグラウンドなどへの転用、終末処理場などの建設がすすみ、河川敷は公園化などにより広い草地環境が消失している。山地や丘陵地では農林業の衰退により、農地や草丈の低い草地の環境が減少している。

【保全上の留意点】

平野部の河川敷や、沿岸部に存在する草丈の低い叢の環境を、保全する努力が必要である。

【特記事項】

愛知県鳥類生息調査の結果で過去に記録のある木曾川玉の井と東大演習林では、全ての記録が秋の渡りにしては少し早い7、8月の記録である。近い場所で繁殖の可能性など、興味深い記録である。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.21. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)